

平成22年度 第1回 CCC教育学グループ運営委員会 議事概要

I. 日 時：平成22年6月28日（月）16：00～18：00

II. 会 場：私立大学情報教育協会事務局会議室

III. 出席者：難波委員、三尾委員、竹熊委員

事務局：井端事務局長、森下主幹、渡邊職員

IV. 議事概要

1 事務局より今年度の委員会のミッションについて説明があった。

- ・完成させるイメージとしては、2006年度「ファカルティディベロップメントとIT活用」である。
- ・今年度から、「情報教育」については、別途専門委員会ができた。
- ・「学士力」教育学の領域においてICTを到達目標もしくはコアカリキュラムの中で活用すると、学士力の達成に効果的であるかを中心に議論する。

2 協議1「ICT活用の事例」

1. 事例の報告

- (1).事例1：初年次学生において、前期科目の課題としてネットでの議論もできている。同時に、ネット上に予習課題の提示と学生がまとめをレポートすることができている。
- (2).事例2：学士力3のために、今、話題となっている報告や事件について、大学教員はTVで放送されている映像を記録し授業で活用するなど、常に担当する授業の内容に関する状況に関心もち、それを授業で活用するのに必要なICT活用につとめるべきである。
- (3).事例3：ICT活用できる環境であるからこそ、授業の教科書を読んできていることを前提に、授業中に学生が集まっていること、予習のレベルも多様であることをふまえたグループの活動とその課題を課している。その課題は、グループのリーダーが自主的に提案し、グループ内での議論をフォーラムで進行する。その議論はほかのグループの学生もみることができる。効果としては、有効である。この際、リーダーの指示の出し方について教員がその適切性について指導をする。

2. 意見交換

- ・事例3について、到達目標1にとってのICT活用として有益である。
- ・従来の講演型の授業だけではなく、ICT特にネットを活用して、予習・復習の実質化と、学生間の議論の場を運用し、授業時間外の議論を促し、適宜、講義中に、フォーラムの画面を提示して、授業の教材として活用することが有効であろう。
- ・事例a:学生のリテラシーとして、レポート作成能力の育成のためには、学期1度の機会では不十分であり、ネット活用による文章作成の機会増にもつながる。
- ・事例b：1、2年生の講義において、単位の実質化という文科省指導に従って、予習を課すことを実施している。
- ・「教育学」を学ぶ学生として、「他者と学び合う、助け合う」学習体験をより多く積ませることが必要である。そのために、授業時間内の活動時間の捻出やネット上の協同作業などを積極的に設定することが望ましいのではないか。
- ・商品名などの用語については、各部会の議論が終わってから、全体として共通化してもらうこととした。

2 協議2 教育学教育における情報教育（中間まとめ）について、外部委員からのコメントについて

- ・“また、プレゼンテーションについては学生相互の評価活用も効果があるであろう”、付記として情報教育の立場から「信憑性」を強調する意見などについて、考慮して、本部会として、検討を進めることとした。